

故きを温ねて、新しきを知る  
〜帯広葵学園のあしあと〜

保育環境の見直しを — 主人公は子ども —

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

昔のことです。「幼稚園は事件がいっぱい」という本を読んだことがありました。最初は、なぜこんなタイトルをつけるんだろうかとの興味から読み始めたのでした。そして、その時は納得する部分がたくさんあったような記憶はありますが、今はその中身のほとんど忘れていきます。

昨今の幼稚園、保育園に関わるニュースや身近な出来事は、そんな私にカツを入れてくれます。今だからこそ、先ず私が、そして私たちが真正面から「子どもが生きていく保育の環境をつくる」とはどういうことなのかを考えなくてはなりません。猪熊弘子さんは、子どもや家族、女性や保育・教育をテーマに活躍するジャーナリストです。その猪熊さんがある本の中でこう言っています。

- 安全・安心な保育のために必要なことは
- ① 保育士、子ども、保護者が、互いにより関係をつくらせているか。
  - ② 保育士が子どもの個性をしっかりと、しかもポジティブに把握しているか。
  - ③ 保育士が子どもが遊び込めるような環境を設定しているか。
  - ④ 立場にかかわらず保育士同士の連携は十分に出来ているか。
  - ⑤ 職員会議や研修を十分行い、保育所内での問題の共有化が図れているか。
  - ⑥ 保育士が子どもの動静をしっかりと把握できているか。
  - ⑦ (保育士全員が、子どもの顔と名前を一致させることができているか) しっかりとした保育計画ができているか。
  - ⑧ 普段から緊急時の対応は十分にできるようになっているか。
- を見直すこととします。そして猪熊さんは、取材した厚生労働省の保育課長の言葉が続けます。
- その課長は、保育所最低基準を例に出して「最低基準は最低の最低」だと話したそうです。ならば、「最低の最低」ラインから引き上げるのは誰かと問いたくなりませんが、そこは書いていません。
- 今回はそこが問題ではありません。その前に私たちが、猪熊さんが安全で安心な保育のために必要な八項目を見直すことにあります。
- ぜひ、職員間で話題にして欲しいと思います。



【幼稚園は事件がいっぱい】

著者…井口 佳子  
出版社…人間と歴史社



『猪熊 弘子氏』

日本女子大学文学部英文学科／お茶の水女子大学 大学院 博士課程後期（保育児童学領域）在学中。／ジャーナリスト。／名寄市立大学特命教授。／一般社団法人子ども安全計画研究所 代表理事。